

埼玉県さいたま市北区  
税理士/大手税務会計事務所  
税理士 大手 昭高 さん

## 見えないものを数字から導き出す

「今は便利な時代で、パソコンに数字を打ち込めば簡単に計算してくれます。でも大切なものは、いつもその先にあるんですよ」

並んだ数字から、資金の流出や経営の弱点等、浮き彫りにされていないモノを導き出していくことが、税理士の役割と言いつつのは、大手税務会計事務所の後継者・大手昭高さん(47歳)だ。

埼玉県さいたま市で200を超える顧客を一軒一軒大切に、創業より36年、

を調査する(財)都市経済研究所で

総務・経理をする傍ら独学で勉強し、'69年に資格を取得、開業

した。税理士としては異色の経歴を持つ泰治所長を税理士界の“異端児”と見る向きもあったが、今も衰えることのないその

バイタリティーと、果敢かつ堅実な仕事振りで顧客数を着実に増やしていった。

開業時、3兄弟の長男である昭高さんは小学6年生。それまで勤めに出ていた父親の奮闘する姿を見て育った。その背中が昭高さんと弟2人の歩む道を決めた

といっても過言ではない。

現在、次男の達哉さんは県内で税理士事務所を開業、三男の寿之さんは昭高さんとともに同事務所を盛り立てている。

## この仕事は信頼関係がすべて 良きパートナーとして絆を深める

確かな実績とノウハウを築き上げてきた同事務所は、父・大手泰治所長(74歳)が開業した。

「当時はそろばんとタイガー計算機で、申告書などは全部手書きでしたね。大きなペンでこ作って：(笑)」

一般的に、税理士資格は税理士事務所などで勤務をしながら勉強し、取得するのが常道。しかし泰治所長は違った。各都市の財務状態

「一緒に仕事をするつもりはなかったのですが、大学卒業後にアルバイトをしながら税理士の資格を取った27歳の時、ちょうど従業員が辞めてしまつて」

昭高さんの目の前に、まるではじめから決められていたかのように道が開けた。忙しい時期でもあったため、即戦力として泰治所長をバックアップ。次々と顧客数を増やしていくこととなる。

## 信頼関係をなくして事務所の将来はない

「お客さまと腹を割って話せる信頼関係を築くことが大切です。でもそれが一番難しいですよ」

顧客が何でも話せる環境、そして安心



「時代が変わっても、機械が進歩しても、人と人とは信頼関係あつてのことです」と昭高さん(写真上)



して任せられるだけの知識と経験が大事と昭高さんは語る。また「お客さまは家族同様」と言うように、プライベートな相談も頻繁に受けるという。

同事務所において今では中心的役割を担っている昭高さん。平成4年、泰治所長が臍臓を患い、1年ほど仕事を離れたことがきっかけだった。

「パプルの影響が出る前にボタンタッチした形です。いいタイミングでしたよ」と豪快に笑う泰治所長は現在、所長職の傍ら、関東6県約6700人が加入する関東信越税理士協同組合連合会の理事長としても精力を注いでいる。

「毎年改正される税法についてお客さまにアドバイスをしなければなりませんから、常に勉強ですよ」とにこやかに話す笑顔の中に、顧客の発展に資するための信念を覗かせる昭高さん。

これからも顧客の良きパートナーとして、そして頼れるブレンとして、さらなる信頼の絆を深めていくことだろう。

GO! GO!! 後継者。

「常にアンテナを張り、情報収集していかなければなりません」と泰治所長(中央)。写真右は三男の寿之さん